

再評価結果（平成30年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・防災課
担当課長名：村山 一弥

事業名	一般国道246号 <small>すその</small> 裾野バイパス		事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 中部地方整備局
起終点	自：静岡県駿東郡小山町小山 至：静岡県沼津市大岡		延長	35.3km		
事業概要						
<p>一般国道246号は、東京都千代田区を起点とし、静岡県沼津市に至る東西交通を担う延長約120kmの主要幹線道路です。</p> <p>本事業の裾野バイパスは、駿東郡小山町小山から沼津市大岡に至る延長35.3kmの国道246号のバイパスであり、交通渋滞の緩和、交通事故の削減、地域経済活性化の支援を主な目的として事業を推進しています。</p>						
S41年度事業化		S46～61年度都市計画決定		S41年度用地着手		S41年度工事着手
全体事業費		520億円		事業進捗率		76%
				供用済延長		30.9km (4車線区間)
計画交通量		35,100台/日				
費用対効果 分析結果	B/C	総費用		総便益		基準年
	(事業全体)	(残事業)/(事業全体)		(残事業)/(事業全体)		平成29年
	1.2	115/1,151億円		435/1,363億円		
	(残事業) 3.8	事業費：98/991億円 維持管理費：17/160億円		走行時間短縮便益：373/1,292億円 走行経費減少便益：53/54億円 交通事故減少便益：9.1/17億円		
感度分析の結果						
<p>(事業全体) 交通量：B/C=1.1～1.3(交通量±10%) (残事業) 交通量：B/C=3.5～4.2(交通量±10%) 事業費：B/C=1.2～1.2(事業費±10%) 事業費：B/C=3.5～4.2(事業費±10%) 事業期間：B/C=1.2～1.2(事業期間±20%) 事業期間：B/C=3.8～3.9(事業期間±20%)</p>						
事業の効果等						
<p>①円滑なモビリティの確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現道等の年間渋滞損失時間の削減が見込まれる <p>②個性ある地域の形成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大規模イベント(富士スピードウェイ)を支援する。 ・主要観光地へのアクセス向上が見込まれる。 <p>③災害への備え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第一次緊急輸送路として位置づけられている。 ・緊急輸送路の代替路線を形成する。 <p>④地球環境の保全</p> <ul style="list-style-type: none"> ・CO2排出量の削減が見込まれる。 <p>⑤生活環境の改善・保全</p> <ul style="list-style-type: none"> ・NO2排出量の削減が見込まれる。 ・SPM排出量の削減が見込まれる。 						
関係する地方公共団体等の意見						
知事の意見：						
<p>本事業は、県東部地域の東西交通を担う国道246号の駿東郡小山町小山から沼津市大岡に至る区間のバイパス事業であり、暫定2車線区間の渋滞の緩和、大型車混入率が高いことに起因する重大事故の削減、県東部地域の産業や物流拠点の連携強化といったストック効果が期待されるなど、当該地域の発展と安心・安全に寄与する重要な事業です。</p> <p>今後も引き続き、早期の効果発現に向け事業を推進するとともに、必要な予算の確保と更なるコスト削減の徹底についても併せてお願いします。</p> <p>また、各年度の事業実施に当たっては、県と十分な調整をお願いします。</p>						
事業評価監視委員会の意見						
<ul style="list-style-type: none"> ・「事業継続」することは「妥当」である。 						

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

- ・ 現況の2車線区間では、沼津（静岡）と関東を結ぶネットワーク上の隘路となっており、交通容量が不足し混雑が発生。
- ・ 2車線区間では、重大事故の危険性が高い正面衝突事故が多い。
- ・ 沿線地域では、工業立地が進展。

事業の進捗状況、残事業の内容等

- ・ 事業進捗率は約76%、用地取得率は約99%（平成28年度末）
- ・ 延長35.3kmのうち30.9kmが完成4車線区間、残り4.4kmが暫定2車線区間。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

・ 駿東郡小山町生土～駿東郡小山町上野（延長4.4km）については、雨量通行規制区間の防災対策を推進してきたところであるが、昨年度までに防災対策に一定の目途がついたことから、新東名高速道路及び一般国道138号須走道路・御殿場バイパス（西区間）開通の影響も含め、周辺交通状況を踏まえつつ、完成4車線化を進めていきます。

施設の構造や工法の変更等

- ・ 技術の進展に伴う新工法の採用等による新たなコスト縮減に努めながら事業を推進していく。

対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

以上の状況を勘案すれば、当初からの事業の必要性、重要性は変わらないものと考えられる。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。
※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。